
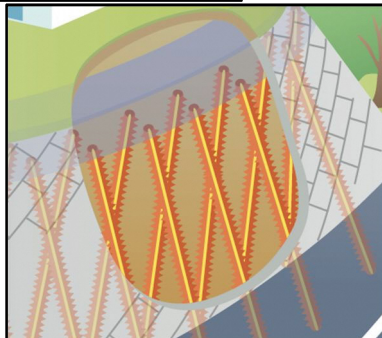

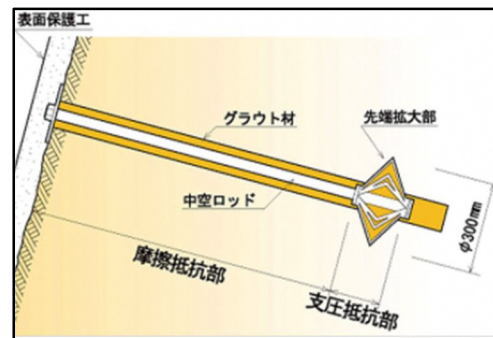
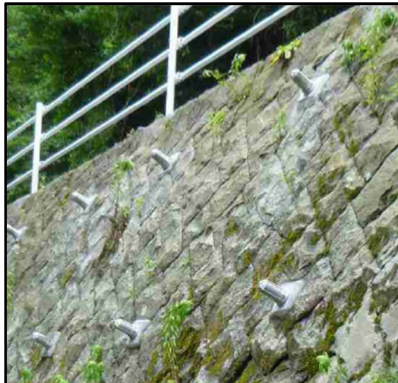
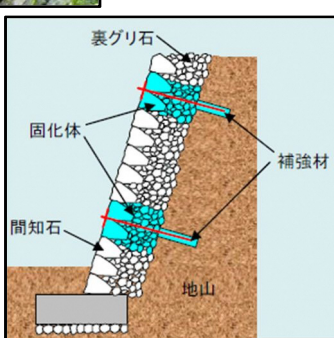
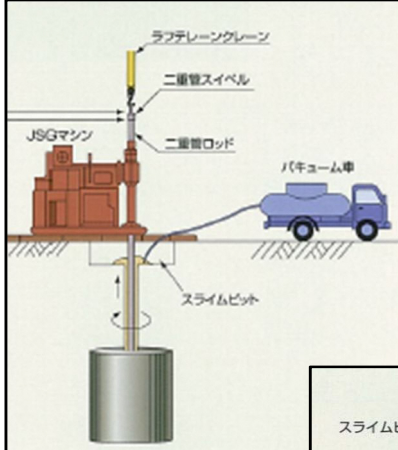
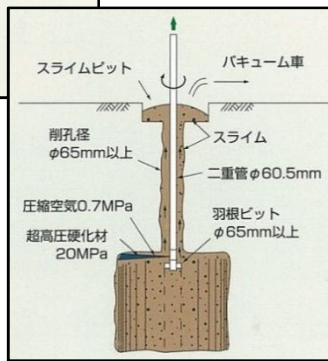


表 工法比較表

	1 案 ルートパイル工法	2 案 ミニアンカーDO 工法	3 案 ピンナップ工法	4 案 JSG 工法
概要図	 <p>↑ 施工例</p>  <p>→ 工法イメージ</p>	 <p>↑ 施工例</p>  <p>→ 工法イメージ</p>	 <p>↑ 施工例</p>  <p>→ 工法イメージ</p>	 <p>↑ 施工イメージ</p>  <p>→ 工法イメージ</p>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>地山補強土工法の一つであり、2方向以上の補強材配置により、地盤の一体化を図り、斜面を安定させる工法である。</li> <li>施工現場の状況に応じて、打設方向や本数の調整を行う事が可能であり、汎用性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地山補強土工法の一つであり、一般的な鉄筋でなく、アンカー先端に支圧抵抗部を設けた補強材を用いる工法で、鉄筋を用いる場合に比べ、補強材延長を短くできる工法である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地山補強土工の一つで、既存石積擁壁を対象とした補強工法である。</li> <li>使用する資機材が小さいため、狭小地・狭隘地で施工可能な工法である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>超高压粉流体を使用して、横方向へ空気とともに噴射することにより、地盤を切削、円柱状改良体を作成する地盤改良工法で、斜面を安定させる工法である。</li> </ul>
施工性	<ul style="list-style-type: none"> <li>斜面上で施工可能な工法である。</li> <li>施工機械が小さく、簡易な足場を用いて作業可能であり、施工性に優れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>斜面下で施工する必要があるが、最低 1m 程度の施工幅が必要であるため、当該地での施工は困難な工法である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工機械が小さく、プラントも小さいため、簡易な足場で作業可能であり、施工性に優れる。</li> <li>斜面下で施工する必要があるが、最低 1m 程度の施工幅が必要であるため、当該地での施工は困難な工法である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>斜面上に足場を設置した上で、比較的小さな機械を使用し施工可能な工法である。</li> <li>改良体を作成する際に、擁壁へ土圧がかかる恐れがあり、安全性に劣る。</li> </ul>
維持管理性	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な補強材の健全性確認が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な補強材の健全性確認が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な補強材の健全性確認が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬化剤はセメント系材料を主体に用いるため、長期的に安定した改良体が得られる。</li> </ul>
環境・景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>法尻に補強材が露出するため、景観性にやや劣る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>擁壁表面に補強材が露出するため、景観性にやや劣る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>擁壁表面に補強材が露出するため、景観性にやや劣る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>斜面内に埋まり、斜面外から視認出来ないため、景観性に優れる。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該地で施工可能な工法であり、擁壁や地権者宅への影響も他案に比べて小さいと評価したため、<u>選定した。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該地では、施工幅が不足しており、適用できない工法と評価したため、<u>選外とした。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該地では、施工幅が不足しており、適用できない工法と評価したため、<u>選外とした。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>斜面上で施工可能な工法だが、施工により擁壁へ悪影響を及ぼす恐れがあるため、<u>選外とした。</u></li> </ul>
	◎	×	×	△